

ワクドツキジグモ *Pasilobus hupingensis* Yin, Bao et Kim

【選定理由】

県内では稀に発見される程度である。

【形態】

体長雌 8~10mm、雄 2~3mm。
雌の体色は茶褐色で、腹部背面に多数の隆起がある。腹部はやや菱形で、縦巾より横巾が 2 倍ほど長い。名の由来のワクドは地方名でヒキガエルのこと。ツキジは発見者である築地氏による (新海, 2006)。



岡崎市池金町, 2019 年 5 月 5 日, 川田奈穂子 採集, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

岡崎市池金町、豊田市琴平町 (大原, 2008)、同京ヶ峰、北設楽郡設楽町で確認された。国内では、本州 (関東以南)、九州、南西諸島に分布する (新海ほか, 2018)。

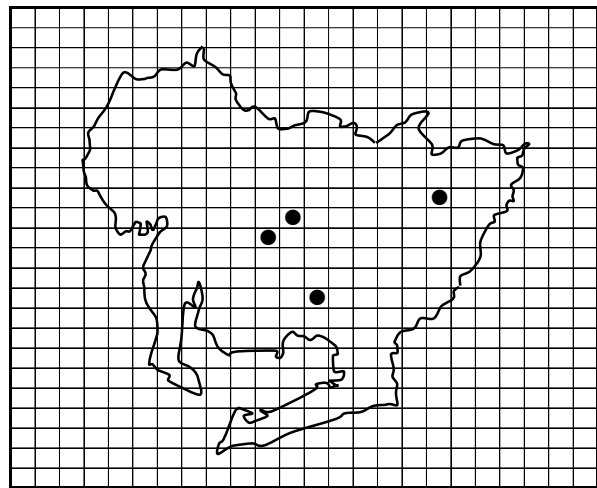
【生息地の環境／生態的特性】

低山の常緑、落葉広葉樹の混生する低木林や林床のシダ植物などから発見される。主に日中は葉の裏上に静止し、夜間に樹間に粘性の強い三角形の水平の網を張る (新海, 2006)。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない種で、稀に発見される程度である。減少の要因は不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地での伐採や開発は慎むべきである。

【引用文献】

- 新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.
大原満枝, 2008. トヨタの森の蜘蛛たち ワクドツキジグモ. まどい No.46. 中部蜘蛛懇談会.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

- Akio Tanikawa, Yung-Hau Chang & I-Min Tso, 2006. Identity of a Japanese spider species recorded as *Pasilodus bufoninus* (Araneae: Araneidae), with a description of the male considering the sequence of mtDNA.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.112. 保育社, 大阪.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.428,623. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.189,518. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)